

策定年月	令和6年10月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：加須市

（作成主体：加須市農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

《麦・大豆生産の現状と課題》

- ・本市における作付けは、水稲が大部分を占めており、麦・大豆についても一定数の作付けがなされている中、水稲から麦・大豆等に転作し、規模拡大を志向する農業者が増えてきている。
- ・収穫物は、地域のJAや卸売業者を通じて実需者へ販売されている。
- ・今後、高齢化や後継者不足等が見込まれるため、現在、地域の担い手や大規模法人の農地集積・集約が進められている。
- ・農地集積・集約を進めている経営体の作付面積は増加傾向にあり、1経営体当たりの作業面積が拡大する中で適期に播種などを行っているため、作付規模に見合う農業用機械の導入により適期作業、栽培管理等の作業効率化が求められている。
- ・麦・大豆を作付けしている経営体の多くは二毛作で作付けしており、大規模な経営体ほど天候等の影響を受けやすく、特に近年の異常気象によって適期の作業が難しく、作業時期のずれが生じてしまい、麦・大豆をはじめ他の品目の作付けにも影響が及んでいる。

《課題解決に向けた取組方針》

- ・麦・大豆生産性向上事業を活用し、農業用機械の新規導入を図ることで、大豆播種及び栽培管理等の作業を効率化するとともに、収量・品質の高位安定化に向けた栽培技術を徹底し、大豆の大規模生産及び供給拡大を図っていく。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

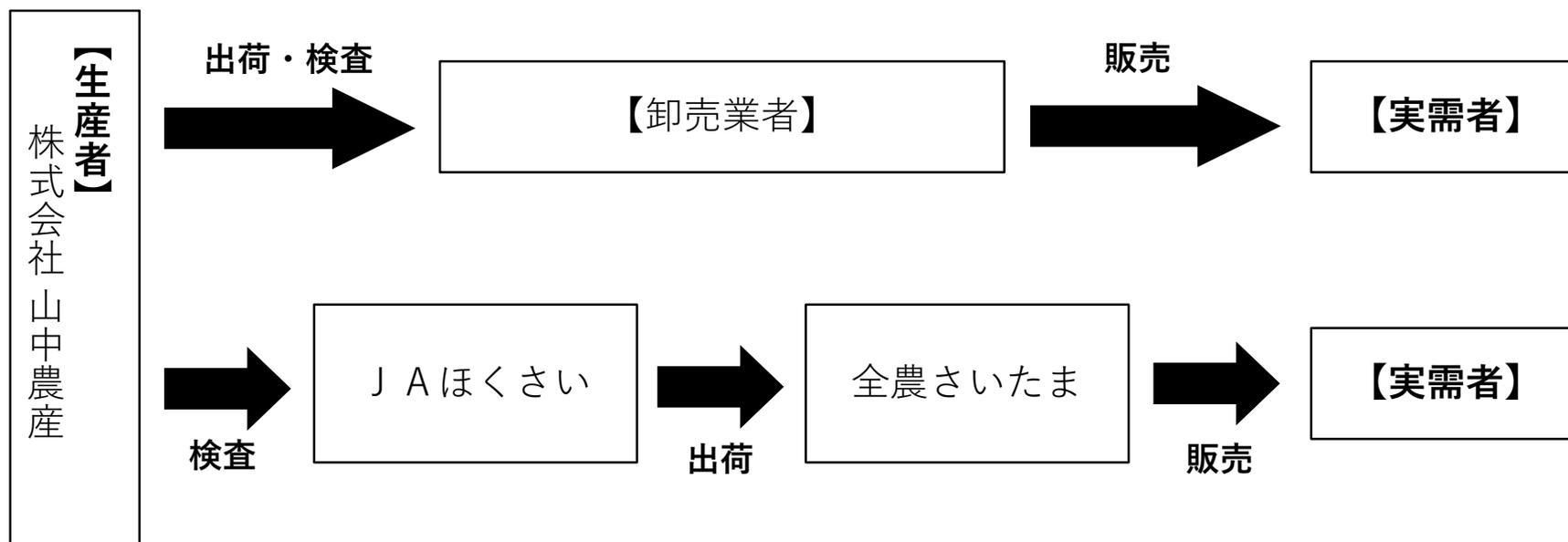
○大豆の取扱量の現状と目標値

令和5年産の大豆については約10haで作付けされ、JAほくさいや卸売業者を通じて実需者へ販売されている。目標年度である令和8年産では約23haで作付けを予定しており、さらなる生産量の増加を目指していく。

○産地における大豆の生産量

現状値【R5】 10,855kg 《実需者（卸売業者）8,485kg・JAほくさい2,370kg》
目標値【R8】 25,300kg 《実需者（卸売業者）4,400kg・JAほくさい20,900kg》

○産地と実需者との連携方針



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

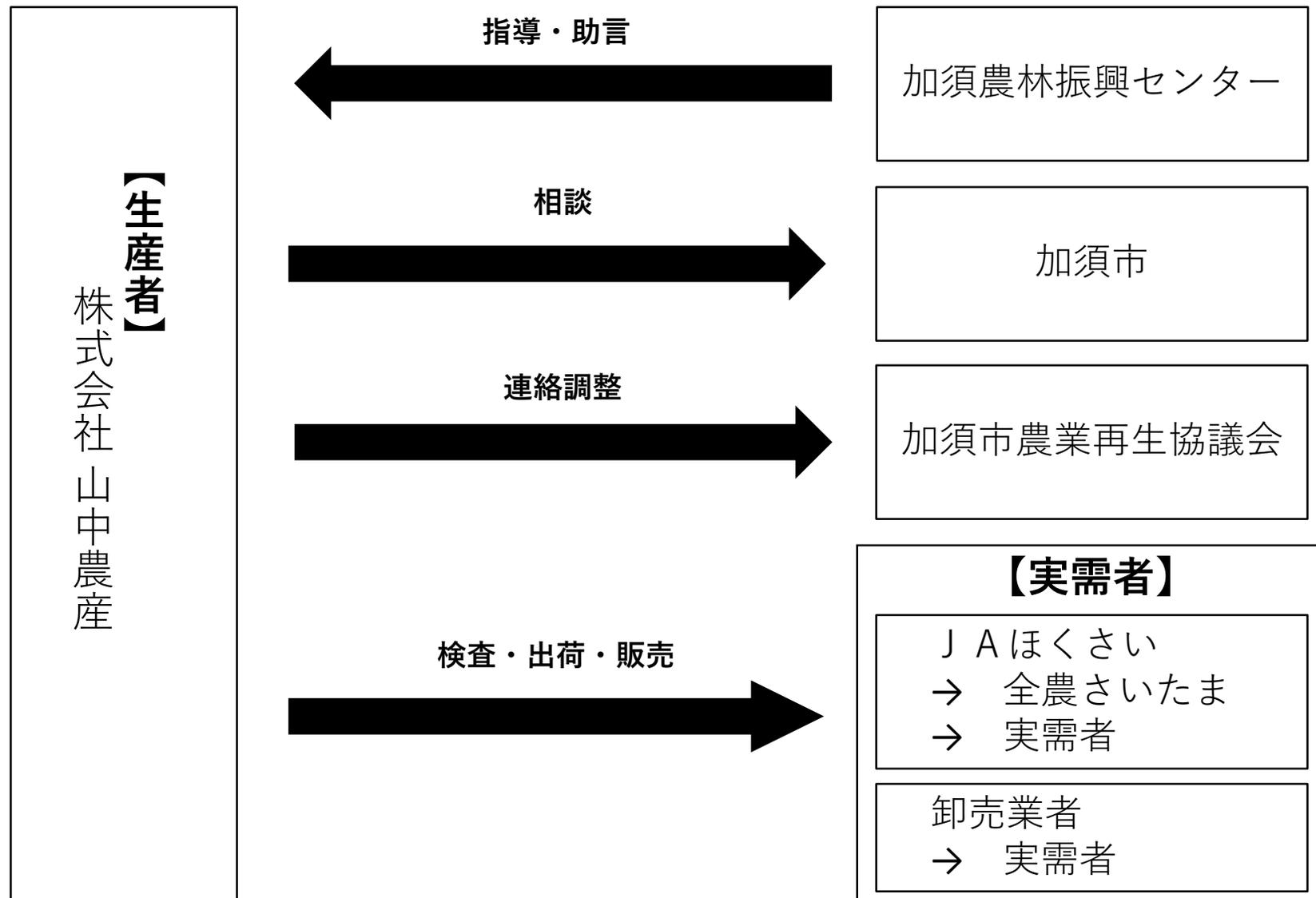
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

○産地と実需者との連携



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。